意欲・熱中・満足

令和５年度１０号
横浜市立立野小学校
令和６年１月３１日

学校だより

「のりしろ」の大切さ

副校長　斎藤　忠雄

授業が再開して早１か月が経とうとしています。ここにきてまた感染症等の流行りもあり、子どもたちの体調面や衛生面に配慮しながらの教育活動を心掛けています。

一方で、今年度を振り返ってみて感じることですが、コロナの５類化に伴い、子どもたちの学習活動も活発化し、校外学習や学習活動の成果発表の機会など、子どもたちにとって、とても恵まれた1年になったのではないかと思われます。そうした中で常に感じる事ができたのは、日々の授業や各学年の校外学習の中で、また、図書ホールを始めとする学習環境の整備など、学校生活の様々な場面で惜しみない協力をしてくださった地域や保護者ボランティアの皆様の姿でした。

我々教師だけでは担えきれない教育活動の「のりしろ」の部分を快く引き受けてくださり、その熱心で献身的なサポートが、学習活動を広げ深めていき、子どもたちの可能性を存分に引き出してくださったと思っています。

さて、「のりしろ」とは紙と紙を貼り合わせるとき、隣同士を接着するために設ける部分です。図工で立体作品をつくる時に「のりしろ」をとったりしますが、作品が出来上がったときには「のりしろ」は見えません。それでもなくてはならない部分でこれがないと作品は崩れてしまいます。

人間関係でもその「のりしろ」がとても大切だと考えます。組織の中でも「のりしろ」の部分を意識し、動ける人がいるとその組織の組織力が高まり、活性化するとも言われています。皆が気付かない、または誰がやるのか決まっていない…、そこを担う。私もそういう役割を進んで担える人間になりたいと考えてはいますが、まだまだ未熟で自分に余裕がなくなると目の前のことしか見えなくなってしまいがちです。

「勉強ができる」、「運動ができる」もよいですが、立野小の子どもたちには、この「のりしろ」の部分に気付き動ける大人に育ってほしいと願っています。その姿を子どもたちの目の前で体現してくださっているのがボランティアの皆様の姿だと思います。我々教師はもちろん、子どもたちが、皆様の姿にしっかりと目を向けて感謝の気持ちがもてるようにしていきたいです。

２月１４日（水）、１５日（木）には「たての音楽会」があります。この学習活動でも子どもたちは音楽ボランティアの皆様に手厚いご指導・ご支援をいただきました。地域・保護者の皆様には、ぜひ、その学習成果をいかんなく発揮する子どもたちの姿をご参観いただきたいと思います。今後も立野小学校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いします。